

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677100150
法人名	社会福祉法人 以和貴会
事業所名	老人グループホーム さくら通
訪問調査日	平成20年3月14日
評価確定日	平成20年4月14日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4677100150
法人名	社会福祉法人 以和貴会
事業所名	老人グループホーム さくら通
所在地	鹿屋市串良町下小原3103-2 (電話) 0994-62-8887
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年3月14日

【情報提供票より】(平成20年2月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤	人, 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	階建ての	階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要(2月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 88 歳	最低 79 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かのや東病院 宮地胃腸科外科 桜ヶ丘病院 池田歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな山々を遠くに望む、穏やかな環境の地に建てられたホームである。芝生の庭はグランドゴルフを行えるほど広々としており、隣接する通所サービス利用者と共にレクリエーションを楽しむこともある。建物内は天井が高く、自然光を多く採り入れて明るく開放感のある造りとなっている。職員は、毎朝のミーティングで認知症に関する冊子を読んで研鑽を続けており、真摯な態度で業務に臨んでいる。また、運営推進会議では、通常の報告のほか、事故・ヒヤリハット事例についても積極的に報告するなど、ご家族や地域に対して開かれたホームを目指して取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で、緊急時の手当についての知識習得が課題とされたが、平成19年9月に、大隅肝属地区防火管理協会主催の普通救命講習を全職員が受講している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	毎月行われている会議の中で、職員全員が自己評価に関わり、意見を出し合いながらまとめている。また、前回の外部評価における指摘事項については、改善策を職員に説明して迅速な取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の運営推進会議において、ホームの活動や事故・ヒヤリハット報告を行い、質問があれば詳細を説明するなど、サービスの質向上に活かせるように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議への参加のほか、相談・苦情窓口としての役割を担っていただけるご家族もあり、より多くの意見や要望を聞くための機会を設けている。また、玄関には意見箱も設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区自治会に加入し、回覧板を通して地域の行事情報等を得ており、催しに参加・協力している。また、隣接している通所サービス利用者の見学や、学生の職場体験、ボランティアによる踊りの慰問等を受け入れており、地元の人々との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人らしい生活を継続するための支援を行うことを、開設当初よりの理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やスタッフステーション、更にパソコンの待ち受け画面にも理念が掲げられており、毎日一読するようになるとともに、処遇の中で問題が生じた場合は、その都度理念に基づいた対応方法について話し合い共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会に加入し、回覧板を通して地域の行事情報等を得ており、催しに参加・協力している。また、隣設している通所サービス利用者の見学や、学生の職場体験、ボランティアによる踊りの慰問等を受け入れており、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月行われている会議の中で、職員全員が自己評価に関わり、意見を出し合いながらまとめている。また、前回の外部評価における指摘事項については、改善策を職員に説明して迅速な取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議において、ホームの活動や事故・ヒヤリハット報告を行い、質問があれば詳細を説明するなど、サービスの質向上に活かせるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや市の担当者へ質問や相談をしたり、ホームの状況報告を行うとともに、運営推進会議前に、ホームに立ち寄ってもらい、入居者の暮らしぶりを見学してもらうなど、交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回発行される「さくら通信」では、ホームでの暮らしぶりを写真を入れて紹介し、一人ひとりの身体状況についてのコメントを書き入れている。また、預かり金の使用明細が記帳された通帳コピーも同封してご家族に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加のほか、相談・苦情窓口としての役割を担っていただけのご家族もあり、より多くの意見や要望を聞くための機会を設けている。また、玄関には意見箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はあるが、その後も交流を続けている。また、新入職員があった場合は、他の職員とともにケアにあたることで対応方法を学べるように支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝のミーティングにおいて、認知症ケアに関する冊子を読み感想を発表している。法人の研修会には、職員全員が参加するように努めている。また、外部研修に参加した職員はホームで報告会を行うなど、熱心に取り組んでいるが、段階に応じて育成計画は今のところ作られていない。	○	職員の経験や役割など、段階に応じて育成するための計画を立て、学びの機会が確保できるように検討していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会に参加しながら同業者との交流を図っている。今年度行われた「大隈地区認知症セミナー2008」においては、主催者の一員として、他のホームの職員とともに活動するなど、サービスの質向上のために取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、ご家族とともにホームに遊びに来たり、体験入居をしていただくなどして、段階を得て馴染めるようにするとともに、入居後も落ち着かれない場合は、外泊を繰り返しながら、徐々に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事や風習・方言について教えてもらったり、畑仕事や調理を一緒に行いながら方法を学んだりしており、その際には必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や身近な方から情報を得るとともに、日常の会話や日々の関わりの中で気づきがあれば、ミーティングで話し合い、経過記録に記載して、ケアに反映できるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族に会議出席を依頼したり、出席できない場合は電話で思いや意見を聴取し、カンファレンスでの職員の意見を含めて、介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人やご家族の思いや意見に加え、職員が日々の気づきを記載したスタッフ連絡帳の内容を取り入れながら、状態の変化時や、定期的な介護計画の検討と見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人には介護老人福祉施設や通所サービスなどがあり、総合的な介護・福祉サービスの支援体制が整っている。また、隣接施設で会議を行うなど、柔軟に活用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご家族同行の受診となっているが、不可能な場合は職員が同行するなど、柔軟に対応している。また、受診の際は、医療機関に介護経過の情報を提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した入居者に対し、かかりつけ医とご家族を交えて十分な話し合いを行い方針を共有している。スタッフに看護師が配置されて医療連携体制の準備が整っており、申請中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	サービス提供時の禁句や対応方法を毎朝のミーティングで学び、言葉かけには十分な配慮をしており、入職時には、管理者より個人情報の取り扱いについての指導が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームや職員の時間や都合にとらわれずに、今までの生活リズムを尊重し、一人ひとりの状態や希望に合わせて起床や食事ができるように柔軟な対応がなされている。外出時の声かけなども、入居者の意向に沿うように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人の栄養士が作成しているが、料理の下準備や味付けは入居者とともにやり、好みなどを配慮して調理している。また、日曜日の夕食は、入居者のリクエストしたメニューにすることで、食事が楽しみなものとなるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯は決まっているが、季節や入居者の状態・希望に応じて、いつでも入浴できるようになっている。また、入浴時間や順番は、入居者の要望を取り入れて柔軟に対応している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	物干し台は、座ったままで干せる高さに工夫してある。農具やランドゴルフの道具なども準備され、一人ひとりの生活歴や楽しみごとに配慮した支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の買い物や散歩は、職員と一緒にっており、一人ひとりの意向や身体状況に合わせた支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	隣接して同一法人の施設があり、敷地の周囲にはネットフェンスがあるが、玄関は日中施錠されておらず、庭への出入りは自由に行える。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を実施している。自治会や、隣設施設の当直者に協力要請をしており、緊急時における協力体制を整えている。夜間想定避難訓練も計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に食事摂取量を記録しており、水分摂取については概ねの量を決めて、摂取を促しながら状況把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
木					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたダイニングに、ソファの空間や和室が設けてあり、ホーム周辺に咲いた花々を採って来て飾るなど、季節を感じながら心地よく過ごせるように配慮されている。また、庭には椅子とテーブルが準備され、季節によっては、芝生の上にテントとゴザを敷いて、自然を満喫しながら過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ラジカセやリハビリの道具、植木鉢や位牌など、自宅で使っていた馴染みの物を持ってきていただき、好みの壁飾りをするなど、思い思いの居室空間が作れるように配慮されている。		